

令和4年度 磐田市立磐田第一中学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善点等	学校関係者評価委員より
「誇り高く（自律）、心しなやかに（共生）、夢はぐくむ（自立）生徒の育成」を目指す教育活動の推進	(1) 一人一人の特性に応じた生徒の心に寄り添う生徒指導の充実 (2) 学びを深める主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善 (3) コミュニティ・スクールを基盤としたなかいずみ学府小中一貫教育の推進 (4) 保護者、地域への情報発信と、地域の教育力を生かした教育活動の推進	1 ・学校教育目標「誇り高く 心しなやかに 夢はぐくむ生徒の育成」を意識して教育活動に取り組んでいる。（教師）	A	「目指す子どもの姿の共通理解」 分析項目1 教師 90% 項目2 教師 93% ○学校で目指している子どもの姿や教育内容について、職員間で共通理解を図りながら教育活動に取り組んでいる。しかし、コロナ禍で学校の教育活動を直接目にする機会が減り、学校の様子が見えにくく感じている保護者が増えていると感じる。 ※今後も学校・学年・学級により、ホームページ等を有効活用しながら、学校の教育活動の情報を保護者の方や地域の方に広く伝えていきたい。 「生徒の心に寄り添う生徒指導」 分析項目3 教師 91% 項目4 教師 87% 項目5 生徒 92% 項目6 保護者 87% ○「学校を楽しんでいる」と考えている生徒が9割を超えており、大多数の生徒にとって学校が安心・安全な場であることが分かる。 ※生徒に寄り添う生徒指導の継続、学府で取り組んでいるレジリエンスの育成をさらに進めていきたい。 「学びを深める授業改善」 分析項目7 教師 85% 項目8 生徒 93% 項目9 生徒 89% ○コロナ禍の中ではあったが「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善が進みつつある。 ※ICT機器の効果的な活用等を通して個に応じた支援の充実をさらに図っていきたい。 「小中一貫教育の推進」 分析項目10 生徒 89% 保護者 73% 教師 58% 項目11 教師 95% 項目12 保護者 90% ○小中一貫教育に対する意識は高いが、学府で取り組んでいる気持ちのよいあいさつには課題が残った。 ※生徒会のあいさつ運動、PTAあいさつ運動、学府合同あいさつ運動などを通して気持ちのよいあいさつをが溢れる学校を目指していきたい。	一中の学校経営方針は、将来の職場や社会生活にも通じるものである。生徒が自ら考え、自ら行動する生徒主体の教育活動の中でこそやりがいが生まれる。社会に出てから後輩からも慕われるリーダーの育成をお願いしたい。一中が目指す目標を達成するための教育活動に地域も協力していきたい。 学校が楽しい場であるという結果に安心したがコロナ禍の中、子どもの負担増で不登校が増えていないか心配である。不登校を減らすには、子どもどうし、子どもと教師のつながりの深さが大事。地域の問題としても考えていかなければならない。「まちなか先生」など様々な大人と出会い機会をつくっていくことに協力したい。 授業を参観して、一中の生徒の一生懸命さと落ち着きが伝わってきた。これからも磐周の中心校として誇りを大切にしてほしい。 一人一台端末など学習の中でのICTの活用は大変結構だが、子どもたちの健康の問題、体験活動の不足などは、危惧される。
		2 ・目指す資質・能力である「自律」「共生」「自立」を育成している。（教師）	A		
		3 ・本校の生徒指導方針を受け、問題を抱える生徒や保護者に適切に関わろうとしている。（教師）	A		
		4 ・レジリエンスを高める取組を行うことができた。（教師）	B		
		5 ・学校では、楽しく生活しています。（生徒・保護者）	A		
		6 ・教師は、子どものことについての相談に適切に応じている。（保護者）	B		
		7 ・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進めている。（教師）	B		
		8 ・先生は分かりやすく教えてくれる。（生徒）	A		
		9 ・学んでいることが自分の力として身についている。（生徒）	B		
		10 ・進んで気持ちの良いあいさつをしている。（生徒、保護者、教師）	C		
		11 ・小中一貫教育を自分事としてとらえ進んで取り組んでいる。（教師）95%	A		
		12 ・学校は、保護者や地域の方の協力を得て教育活動を進めている。（保護者）	A		

重点	目標・取組	評価指標			自己評価	考察・改善点等	学校関係者評価委員より	
自律	自ら考え、判断して行動する生徒の育成	13	・進んで先生に開いたり自分で調べたりしている。(80%)	生徒	74.50%	C	○自ら考え、判断し行動する力を育むための「生徒が進んで開いたり自分で調べたりする」項目については、生徒、保護者共に数値目標に達していない。特に、保護者の評価についてはここ教年下降傾向にある。 ※本校の生徒信条の一つに「私は知識を磨くため、自主的に学習する生徒になります」とある。自ら学ぼうとする姿勢は本校が大切にしているものであり、授業における学習課題の提示、家庭学習の在り方等、生徒の意欲を引き出す学習活動について研修していきたい。また、「授業でじっくり考えたり表現したりする」項目については、生徒の評価が数値目標に近づいているため、思考を深めたり互いに学び合ったりする場面に意図的に設定していきたい。	保護者の数値が低いのは、学校での子どものがんばりが伝わっていないからだと思う。コロナ禍の中で子どもたちの活動を実際に見る機会が減ったことも大きな原因ではないか。来年度は、地域住民や保護者が学校の教育活動に関わる機会が増えることを願っている。
				保護者	54.30%			
				教師	73.20%			
		14	・授業でじっくり考えたり表現したりしている。(91%)	生徒	89.90%	B		
				保護者	未実施			
				教師	84.20%			
共生	多様な個性を受容し、協働して協課題を解決する生徒の育成	15	・相手の気持ちを考えた温かな言葉遣いをしている。(93%)	生徒	89.30%	B	○温かな言葉遣いに関しては、生徒と比べ保護者、教師の評価が低い。学校生活において、相手を傷つける言葉や、接し方が見られた場合、その場で指導していきたい。 ※また、道徳科の授業やレジリエンストレーニング等を通して、思いやりの心や礼儀、公共の精神、集団生活の充実など、人としての生き方を深めることを意識できる教育活動を改めて大切にしていける必要がある。 ○お互いを認め合い協力するに関しては、教師の100%、生徒の93.8%に対し、保護者の評価が低く生徒のよさが保護者に十分伝わっていないことが分かる。 ※生徒の良い表われを機を逃さず称揚し、保護者にも伝えるなど学校と家庭が連携して自己有用感を高めていきたい。	多様な個性を受容し、協働して協課題を解決する生徒の育成のためには、学校外での活動や学校外の人々との出会いも大切となる。「赤ちゃん広場」、「読み聞かせボランティア」など保護者だけでなく民生児童委員も学校に協力していきたい。
				保護者	82.60%			
				教師	85.20%			
		16	・お互いを認め合い、助け合い協力して行動している。(90%)	生徒	93.80%	A		
				保護者	84.10%			
				教師	100%			
自立	夢(こころざし)の実現に向けて粘り強く取り組む生徒の育成	17	・目標に向かって粘り強く取り組んでいる。(92%)	生徒	85.20%	B	○目標に向けての粘り強い取組については、生徒と比べ保護者、教師の評価が大幅に低い。授業や特別活動において目的意識を持ち地道に取り組む必然性がある活動を意図的に設定することが必要である。 ○コロナ禍ではあったが体育大会と合唱コンクールを昨年度より制約が少ない中で開催することができ、生徒の満足度も高かった。 ※今後も学級における居場所づくり、絆づくりを大切に、生徒が自己有用感を感じられるよう、認め、励ましていきたい。 ○部活動においては、生徒と教師が目標を共有することで、熱心に取り組み、充実感を感じている生徒が多い。 ※今後も、部活動ガイドラインを遵守しながら、さらに生徒主体の部活動へ改善していきたい。	合唱コンクールでは思いをひとつにすばらしい合唱をつくりあげていることに感動した。コロナ禍の中でも教育活動を簡単にやめず工夫して続けていくことが大切だと思った。合唱に限らず多様性を認める中で集団としてのまとまりをつくる教育を続けていってほしい。私たちにできることがあれば積極的に声かけをしてほしい。 部活動の地域移行は、子どもや保護者の思いを考えると簡単ではない。今は、学校において部活動ガイドラインののった部活指導を続けていくことが必要だと思う。全国大会・東海大会出場など大きな成果をあげてきている。地域でもバックアップしていきたい。
				保護者	69.20%			
				教師	68.50%			
		18	・学校行事や部活動に集中して取り組んでいる。(96%)	生徒	95.30%	A		
				保護者	92.40%			
				教師	100%			

学校関係者評価を受けてのまとめ

コロナ禍の中、なにかいずみ学府としての取組や本校の教育活動について保護者・地域住民に十分な情報発信ができていない現状もある。今後は、コミュニティ・スクールの利点を生かし保護者、地域住民を学校の教育活動に巻き込むことで信頼関係を深め、学校運営の改善やなにかいずみ学府として取り組んでいる「誇り」高く「心」しなやかに「夢」はぐむ子どもの育成をさらに推進していきたい。安心安全な学校・学級風土を醸成できるよう、生徒の心に寄り添い、きめ細やかな、あたたかい生徒指導、「確かな学力」が身につく「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善は継続してその充実に努めたい。